

支部会員による積雪の観測

日本気象予報士会 東海支部 関谷不二夫 他

1. はじめに

東海地方の濃尾平野、伊勢平野は太平洋側に位置しているが、冬季の卓越した北西風の風上である若狭湾から伊勢湾にかけては本州の地峡部にあたっている。脊梁山地も標高 1000mあまりと比較的低く、北西風により雪雲が脊梁山地を越え、しばしば平野部にも流れ込み降雪をもたらす。

降雪域の幅は狭く、わずかな風向の違いにより、降雪範囲が大きく異なることが知られている。

一方、気象庁の積雪観測地点は岐阜県山間部には数か所設置されているものの、東海地方平野部では名古屋、岐阜、津の各地方気象台の 3 か所のみであるため、平野部での細かな積雪状況を把握することはできない。

そこで、地域内に広範囲にわたって在住している、支部会員に積雪の情報提供を求め、風向その他気象状況による降雪範囲の違いなどを調査するにした。

2. 調査方法

東海支部メーリングリストを活用し、自宅または勤務先などで積雪のあった場合に報告する。現地状況のイメージがよくなるように、また多くの方に積雪状況を共有できるようにできるだけ写真を添付することとした。

観測時間については、東海平野部（特に名古屋市内など都市部）では日中の降雪が積雪することは稀なので、最深積雪が測定される午前 7 時前後とした。

また、観測時刻のレーダー画像、高層天気図、局地天気図等も参考にして分析してみることにした。

3. 調査結果とまとめ

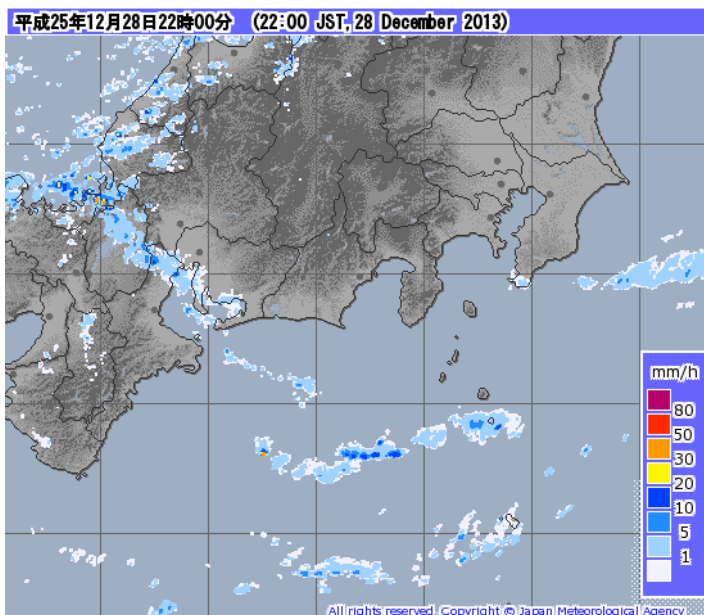
今季の積雪は今のところ 12 月 28 日～29 日のみであるのでその結果を報告する。

以下の図は 12 月 28 日～29 日にかけての積雪を会員による報告をもとに分布図に表したものである。積雪状況をできるだけ多くの会員に共有できるように写真を地図上で閲覧できるようにした。

この事例では、レーダー画像による降雪域と会員による積雪報告および、AXFE578 の 850hpa 風向とレーダー画像の降雪域の方向が一致していることが明瞭である。

今後別の気象状況の事例で風向の違いにより降雪域の変化が考えられるため、さまざまな気象状況での調査をし、レーダー画像のみならず、局地天気図からの地上風との関係、地形の影響等、更なる解析をしていく予定である。

レーダー・ナウキャスト (12月28日22時)



AXFE578 (12月28日21時)



東海支部会員の積雪情報報告(12月28日~29日)

